

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 北野天満宮からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・境内は中ノ森と呼ばれ高木が多くその中を参道が通る。本殿周辺は塀で囲われており境内から外部は視認できない。北門、東門の外側には周囲の町並みが見える。
- ・お土居の地盤は周囲より高く、上からは社殿の屋並が見える。



1-1 北門から北への眺望
：北側参道沿いの低層住宅が見える。



1-2 東門内側から塀越しの眺望
：御前通を挟み隣家の屋根が見える。



1-3 東門から上七軒への眺望
：上七軒通沿いの低層住宅や店舗が見える。



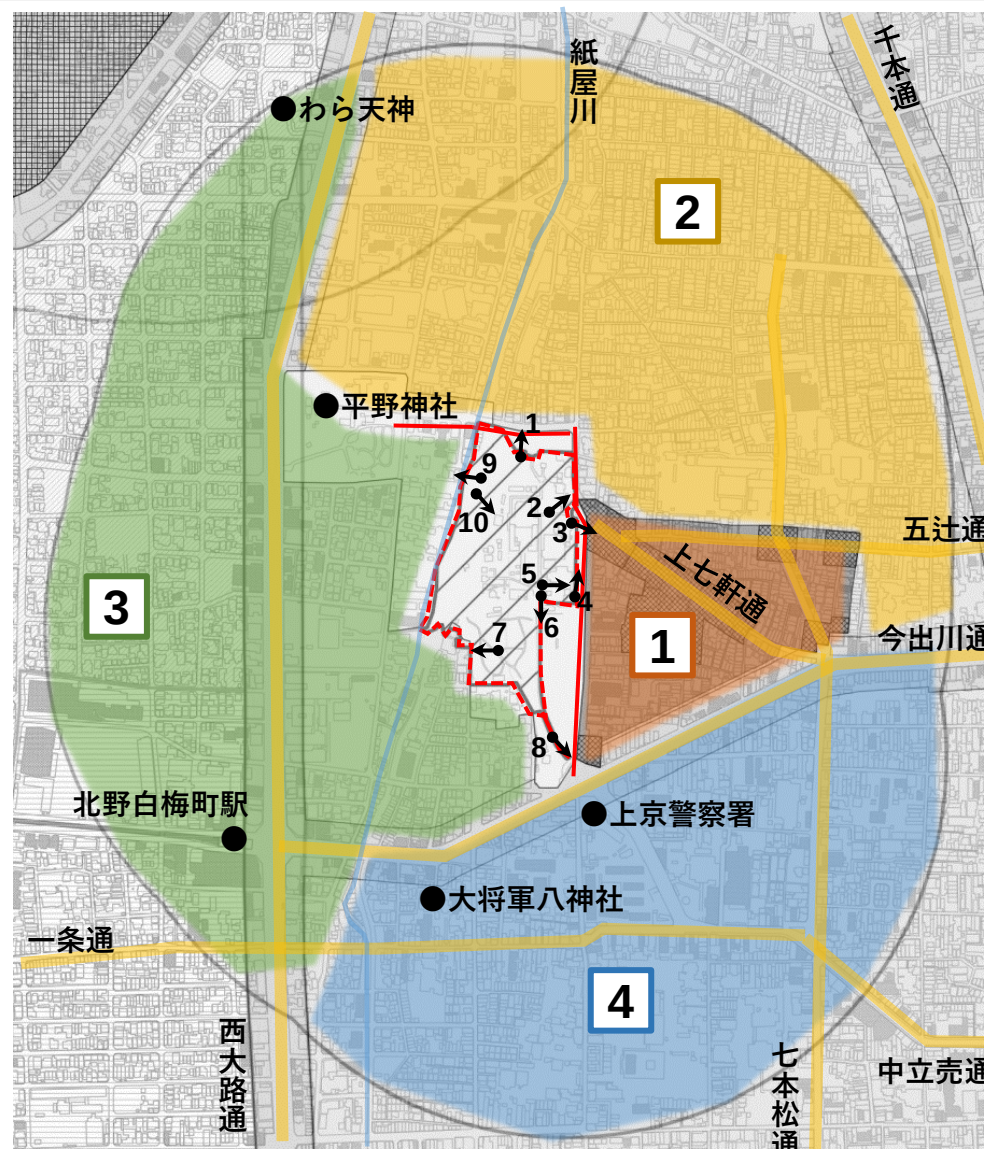
1-4 御前通の町並み
：茶店などが立ち並ぶ。



1-5 楼門前から東への眺望
：植栽の奥に住宅等が見える。



1-6 楼門前から南への眺望
：植栽により外部の建築物等は見えない。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



1-7 参道から東向観音寺への眺望
：隣接する寺院や低層建築物が見える。



1-8 一の鳥居前から南への眺望
：今出川通沿いの上京警察署等の大型の建築物が見える



1-9 お土居から西への眺望
：木立の密度が高いが隙間から紙屋川対岸の建築物が一部見える。



1-10 お土居から南東への眺望
：社殿群が見える。

■ 2 北野天満宮周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・ 神社北部は西陣産業地で百軒長屋と呼ばれる京町家が多く残っている地域であり、東部には京の奥座敷と呼ばれる上七軒の花街がある。
- ・ 西大路通を挟む地域は区画整理事業での比較的新しい町並みである一方、紙屋川周辺は歴史ある邸宅が多い。



2-1 西大路通の町並み
：並木のある通り沿いに、平野神社の土塀と社業、中低層の建築物が立ち並ぶ。



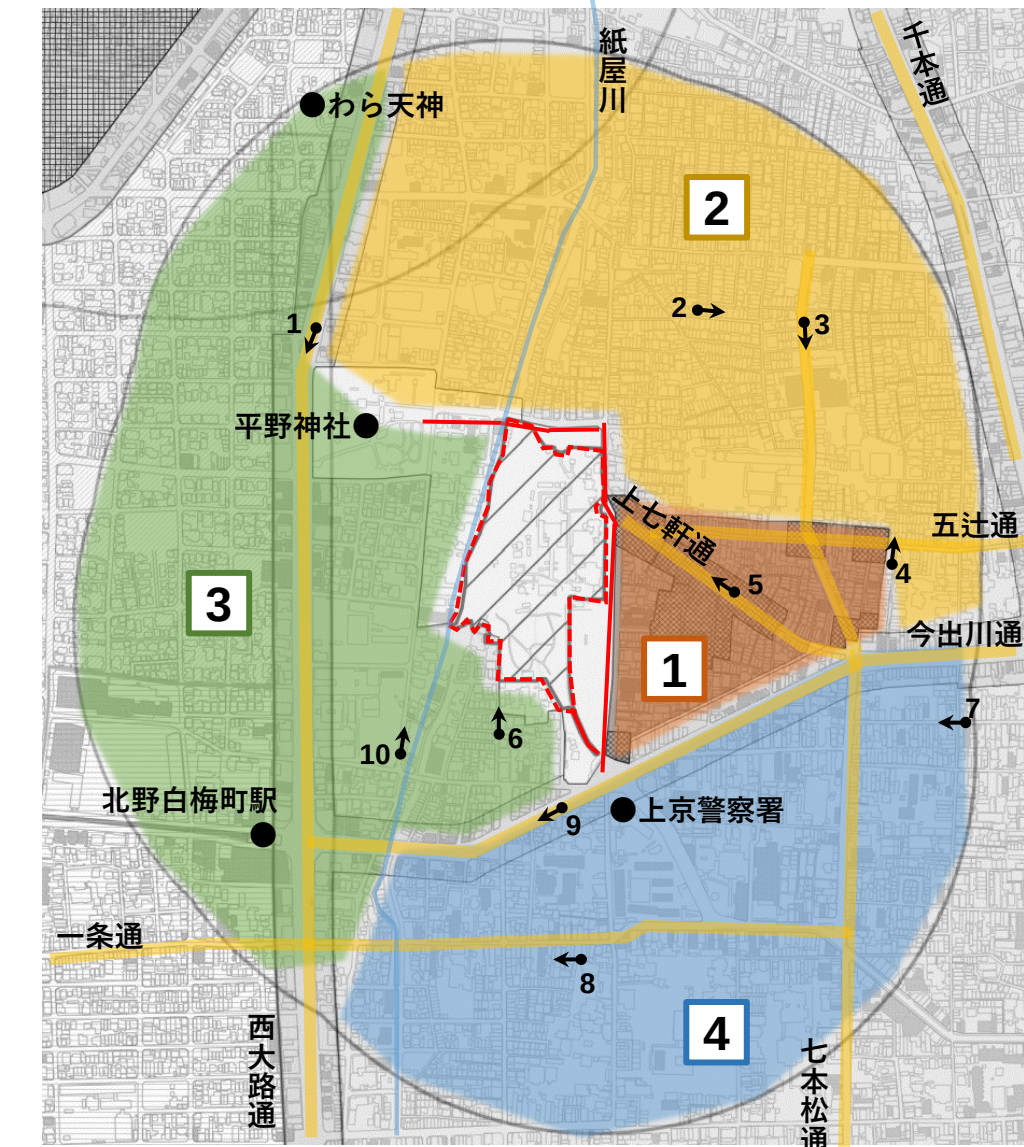
2-2 柏野の町家群
：百軒長屋とよばれる町家の町並み



2-3 七本松通の町並み
：中高層の建築物と町家が混在している。



2-4 千本釈迦堂参道
：南に参道が延び七本松通と接続する。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



2-5 上七軒通から北西への眺望
：沿道には社寺や茶屋が立ち並ぶ。上七軒歌舞練場は地域のランドマークとなっている。



2-6 北野天満宮南側の町並み
：低層の住宅が立ち並ぶ。奥に北野天満宮の緑が見える。



2-7 元誓願寺通の町並み
：東の旧市街地から延びてきている道で、道沿いには町家と新しい住宅が立ち並ぶ。



2-8 一条通（妖怪ストリート）
：一条通七本松以西は商店街を形成し、その中心には大將軍八神社がある。

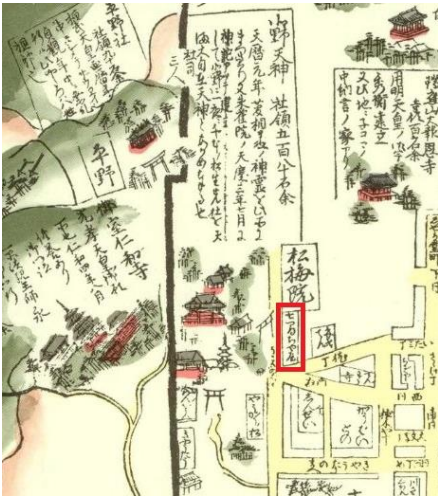


2-9 今出川通の町並み
：中低層の商店や住宅が立ち並ぶ。



2-10 紙屋川西側の通りから北への眺望
：大型の邸宅や近代建築などが閑静な住宅街を形成している。

■ 3 北野天満宮周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

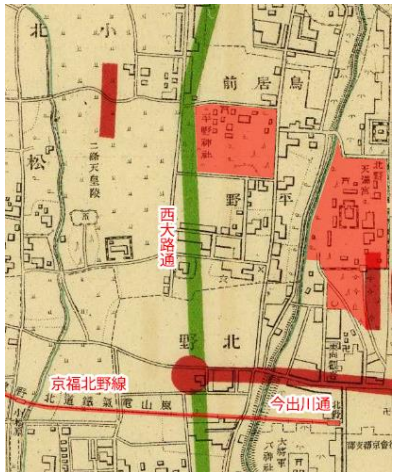
1 上七軒		参考写真等	
ア エリアの歴史等	・「上七軒」と呼ばれる地域が過半を占める。室町幕府第10代将軍足利義材が参詣人休憩のための茶店7軒を建てたことが「上七軒」の起こりで、「七軒茶屋」といわれた(図3-1)。 ・江戸期、鳥居前町・真盛町・社家長屋町は、北野門前遊里として栄えた。西陣の機業家を主な顧客としたが、太平洋戦争でお茶屋の大半が転廃業し、戦後の織物産業の衰退によりお茶屋の減少に拍車がかかった。 ・明治30年代に北野会館(上七軒歌舞練場)が完成、昭和26年(1951)以降、増改築を経て現在の姿となる。		3-1「元禄九年京都大絵図」 元禄9年(1696) ：「七軒茶屋」の表記が見られる
	・お土居内の街区で、上七軒通・五辻通など古い通りに面して屋並があったが、裏側は宅地化されるのが遅く複雑な路地で構成されている地域である。 ・上七軒と呼ばれる花街であるが、お茶屋は年々減少し飲食店や住宅へと変化してきた。近年は町家を改修した宿泊施設も増えてきている。 ・上京北野界わい景観整備地区では、新たに建築された建築物も、花街の風情に調和するよう配慮されている。上七軒歌舞練場は、地域のランドマークとなっている。 ・平成25年に石畳風アスファルト舗装や電線の地中化など景観上の整備が進み、美しい町並みとなっている。 ・上七軒通やその裏の茶屋街には町家など歴史的建築物が多く残っている。夜になると町家の格子から光がもれる美しい町並みである。		
	イ 町並みの特徴		
ウ 景観形成方針	歴史遺産型美観地区 上京北野界わい景観整備地区		3-2 上七軒通
	北野天満宮や千本釈迦堂の門前町として形成された歴史の古い市街地である。北野上七軒は京都で最も歴史の長い茶屋町で、門前町の賑わいと芸能文化の発展に寄与し優雅で落ち着いたある町並みを形成してきた。一方、当地区は西陣機業の集中する市街地でもあり、その関連業も含む同業者町を形成し、職・住が共存した趣のある町並み景観を呈している。		
エ 建築計画等に求める配慮事項	・上記の特色ある景観を維持又は整備すること。 ・地場産業の発展によって形成された町や家づくりの知恵や作法を評価し、町並み景観づくりに生かすこと。 ・通りごとの景観特色をより鮮明にするよう景観づくりに配慮すること。特に、数寄と華が感じられる茶屋建築で構成される町並み景観は、地域特色を強調するものであり、後世にこれを伝えるとともに、魅力ある生業や生活が営めるよう環境の維持に努めること。		3-3 上七軒歌舞練場
イ 町並みの特徴	・江戸期から明治期にかけては耕作地であり、千本通・五辻通の沿道、平野神社門前に集落があった。 ・大正元年(1912)京都市電千本線の今出川一丸太町間・今出川線の千本一烏丸間が開業し千本通以西の宅地化が始まる。昭和4年(1929)千本線の今出川一北大路間が開業、昭和11年(1936)西大路線の千本北大路一白梅町間が開業し、西大路通の開通も合わせて区画整理が行われた(図3-5)。 ・昭和28年(1953)には、西大路通紙屋川間を除き、宅地化がほぼ完了した。		3-2 上七軒通
	・西陣と呼ばれる地区の西北端付近に位置し、織物産業の街として発展した地域で、織屋建等の特徴ある京町家の長屋群が多く残る。織物産業の衰退により工場も職人も減ったとはいえ、日中には織機の機音が聞こえてくるような職住一体の街である。 ・細い通りが多く、京町家が纏まって残されている街路もあり、風情を残している。 ・紙屋川沿いには、豊臣秀吉が築いた御土居の跡が残されており、紙屋川以西は、西大路通の整備とあわせて区画整理が行われた地域であり、整然とした街路の低層の住宅地となっている。		
ウ 景観形成方針	旧市街地型美観地区		3-2 上七軒通
	北野天満宮や平野神社をはじめ、高密度な市街地のなかの各所に社寺が立ち、境内の緑がオアシス的な役割を果たすとともに、通りから望見できる豊かな社叢や樹木が、町並み景観上のアクセントとなっている。また、土間などを織場とした住宅である織屋建の特徴的な京町家が多く残る。こうした京町家や社寺等の歴史的建造物や緑とが調和する景観特性を継承する。		
エ 建築計画等に求める配慮事項	沿道型美観形成地区		3-2 上七軒通
	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないように、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。		
イ 町並みの特徴	建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は、門や塀、生垣等を設置すること等により、京町家や社寺との連続性に配慮し、町並み景観の保全、創出を図る。		3-2 上七軒通
ウ 景観形成方針	沿道型美観形成地区		3-2 上七軒通
	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないように、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。		
エ 建築計画等に求める配慮事項	建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は、門や塀、生垣等を設置すること等により、京町家や社寺との連続性に配慮し、町並み景観の保全、創出を図る。		3-2 上七軒通

■ 4 北野天満宮周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

3 北野天満宮西側

ア エリアの歴史等	・御土居の外側で、近代以降の開発による計画道路が通り整然とした区画が特徴である。 ・西大路通は、昭和10年代までに都市計画道路として完成した。平安京の道というと野寺小路に相当すると伝わる。 ・都市計画道路の完成、市電の開通、京福電鉄の開通などで、住宅地が広がった。大正14年(1925)に開業した現京福電気鉄道北野線は、北野天満宮の南側にあった北野駅が起点であったが、今出川通の拡張工事に伴い北野白梅町駅が起点となった(図3-9)。		
イ 町並みの特徴	・紙屋川西部の地域は区画整理事業で街区が形成されており、区画の一部に旧集落の街路が混じり込んでいるような構成で、道路も広く、大型の邸宅や近代建築などが閑静な住宅街を形成している。 ・北部にはわら天神や平野神社があり、北野天満宮北門から西、紙屋川を超えると平野神社に至る。 ・西大路通沿道には、平野神社やわら天神といった神社のほか、スーパー・小学校や修道院などの大規模敷地も多く見られ、中低層のゆったりした町並みが形成されている。 ・北野白梅町の交差点付近は、駅や大規模商業施設を中心に、商業集積が形成されている。 ・幹線道路をはずれた街区は、比較的新しい住宅の低層の町並みとなっている。 文化財等：聖ヨゼフ修道院門の家、衣笠会館、平野神社、東向観音寺、御土居（史跡名勝天然記念物）		
ウ 景観形成方針	風致地区	旧市街地型美観地区	山ろく型建築物修景地区
	北野天満宮と平野神社は独自の境内環境を示し、またこれをつなぐ紙屋川沿岸は緑の濃い河川と閑静な住宅が優れた風致を形成している。これら2神社と紙屋川とのまとまりのある歴史的景観を維持する。	京町家や社寺等の歴史的建造物や緑とが調和する景観特性を継承する。	北山の山ろく部には、多くの歴史的資産があり、その周辺は山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。
エ 建築計画等に求める配慮事項	平野神社参道では、参道に配慮した植栽と大屋根が掛かった建造物により、参道景観の保全を図り、紙屋川沿いでは、優れた和風空間の維持及び緑の保全を図る。	建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は、門や塀、生垣等により、京町家や社寺との連続性に配慮し、町並み景観の保全、創出を図る。	建築物は、歴史的資産等の周辺において、勾配屋根を設け、壁面の色彩を暖色系の自然素材色とするなど、和風基調の町並み景観を形成する。

参考写真等



3-9 「京都市都市計画道路図」大正14(1925)



3-10 紙屋川西部の町並み



3-11 西大路通の町並み



3-12 北野白梅町付近の町並み

4 北野天満宮南側

ア エリアの歴史等	・江戸期は地域の大半が典型的な近郊農村であったが、天神川以東は早くから市街化していた。 ・下之森一带は北野天満宮の参詣人を相手の芸能が盛んで小屋掛による興業や茶屋が営まれていた。 ・西大路通・今出川通・千本通は市電軌道敷設のために拡張され、同時に区画整理事業も進行し、交通網の発達と共に地域は市街化していった(図3-13)。	
イ 町並みの特徴	・今出川通以南は、明治の中期から戦前に市街化が進んだ際に、旧街道に囲まれた街区内部に細街路が多く形成された。現在も細街路や袋路が多い地域である。 ・一条通や仁和寺街道などの旧街道筋に社寺も多く立地しているが、社寺や仁和小学校などの大規模な敷地の周囲は、低層の住宅群が立ち並ぶ住宅地となっている。 ・七本松通以西の一条通は、大將軍商店街となっており、妖怪ストリートとも呼ばれ、普段から妖怪にちなんだ装飾がされている。 ・今出川通沿道は、商業系ビルやマンションなどが立ち並ぶ中低層の町並みとなっている。 文化財等：梶田家住宅、立本寺庭園	
ウ 景観形成方針	旧市街地型美観地区	沿道型美観形成地区
	北野天満宮や平野神社をはじめ、高密度な市街地のなかの各所に社寺が立ち、境内の緑がオアシス的な役割を果たすとともに、通りから望みできる豊かな社叢や樹木が、町並み景観上のアクセントとなっている。こうした京町家や社寺等の歴史的建造物や緑とが調和する景観特性を継承する。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないように、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。
エ 建築計画等に求める配慮事項	建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は、門や塀、生垣等を設置すること等により、京町家や社寺との連続性に配慮し、町並み景観の保全、創出を図る。	

参考写真等



3-13 「京都府京都市西陣局郵便区市内図」昭和30年(1955)



3-14 元誓願寺通の町並み



3-15 大將軍八神社前の町並み



3-16 今出川通の町並み

3-1 「元禄九年京都大絵図」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-5 「京都市全圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-9 「京都市都市計畫道路圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-13 「京都府京都市西陣局郵便区市内図」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）